

くすのき



～「命」と向き合う学び — 阪神淡路大震災から31年～

今から31年前の1月17日、阪神淡路大震災が発生しました。子供たちも、半数の本校教職員も、この震災を経験していないか、記憶にないという状況です。ですが、兵庫に生きる私たちにとって、あの日得た教訓を次世代に語り継ぐことは大切な使命です。

学校ではこの節目に合わせ、先週1月15日(木)業間休みに、時間の予告なしの避難訓練を実施しました。災害は、休み時間や清掃中など、教師がそばにいない時に起きる可能性もあります。訓練の時間を伝えずに行ったのは、放送を正確に聞き、その場の状況から「どう動けば身を守れるか」を一人ひとりが自分で判断する力を養うためです。

揺れが収まった後、運動場に避難して安否確認、半旗の意義についても確認し、その後は津波を想定し垂直(高い場所に)避難の訓練も行いました。「いつ起きてもおかしくない状態」と言われている南海トラフ地震のこともあります。命を守り抜くため、ご家庭でも『もしも』の時の備えや避難場所について、ぜひ具体的に話し合ってみてください。



～地域と共にある安全(氷丘地区総合防災訓練)～

先週の1月17日(土)、氷丘地区の総合防災訓練が実施されました。氷丘地区内のたくさんの団体が参加したこの日、氷丘中学校へ徒歩で避難後、様々な訓練が行われました。

- ・避難訓練(障がい者/高齢者)
- ・避難所設営運営訓練
- ・消防高所作業車体験
- ・応急給水設備設置訓練
- ・災害時炊き出し訓練(カレー)

地域の方々が真剣に訓練に励む姿に力強い「共助」のネットワークを実感しました。



一筆に心を込めて・書初めと市内書写展

新春の静寂の中、1月8日には校内で書初めを行いました。一筆に心を込め、自分と向き合う姿は凛としています。

3年生以上の代表作品は加古川市総合文化センターで開催の市内書写展に出展されました。素晴らしい作品ばかりでしたが、子どもたちの真剣な書きぶりを思い返し、それ以上にその「集中した過程」も大切であることを改めて認識しました。



想定外の事態から得た「備え」の学び

14日は炊飯機の故障により、備蓄のアルファ化米を食べました。スクリレにて市教育委員会からご報告したトラブルの中、15分遅れの給食となりましたが、「非常食」を体験する貴重な機会に。当たり前への感謝が深まる、有意義な防災学習の一日となりました。

